

## 2 府民経済計算の考え方

府民経済計算は、大阪府という行政区域における各産業の生産活動によって1年間に生み出された価値（付加価値）を、生産・分配・支出の三面からとらえることにより、大阪府経済の規模や産業構造を総合的、体系的に明らかにしようとするものである。

農業、製造業、商業などの各産業は、労働者や機械・設備などを使い、原材料を投入して財貨・サービスを生産する。この生産された財貨・サービスの価値を市場価格によって単純に合計したものが生産総額（産出額）である。

しかし、この中には、生産にあたって原材料として投入された、いわゆる中間生産物（中間投入）が含まれているので、生産総額（産出額）から中間生産物を除くことにより、生産活動によって新たに生み出された付加価値（総生産）が得られる。

$$\text{産出額} - \text{中間生産額} = \text{総生産}$$

さらに、その中には、建物や機械・設備などが生産過程において減耗する価格分（＝固定資本減耗）が含まれており、この部分を除くことにより正味の付加価値（純生産）が得られる。

$$\text{総生産} - \text{固定資本減耗} = \text{純生産}$$

こうして生産活動によって新たに生み出された付加価値は、生産に参加した各要素に、すなわち労働者には賃金、企業には利潤などの形で分配され、分配された価値は消費や投資などの形で支出される。

このように、経済活動は、生産→分配→支出という循環を繰り返すが、これらは同一の価値の流れを異なった側面からとらえたものであり、概念上の調整を加えると、

$$\text{生産} = \text{分配} = \text{支出}$$

の関係が成り立つ。これを「三面等価の原則」という。